



綺麗に咲いている芝ざくら

○環境美化・保全活動事例

地域の環境は、地域の手で ～芝ざくらの植え付け～



除草作業のようす

相模川の新戸地域の河川敷は、カヤ、ブタクサなどの丈の高い雑草が茂っており、鬱蒼^{うっそう}としていました。このため、河川敷沿いにある遊歩道も通行する人が少なく、結果として不法投棄が多くなっていました。

県が定期的に雑草の除去を行っていましたが、除去後しばらくするとまた雑草が繁殖してしまいました。こうした状況を見かねた新戸地域の老人会

事例の概要

で、自主的に河川敷の整備を始めました。当初、雑草の除去後に紫菜花を植えました。一年草であるため毎年植え付けが必要であるなど手間と時間がかかるため、翌年からは多年草である芝ざくらを植えました。

この芝ざくらの維持管理は、平成14年から老人会に代わって芝ざくら愛好会が行うこととなりました。

特徴・ポイント

毎週行う雑草の除去や傷んだ芝ざくらの植え直しなどの定例的な活動については、相模川芝ざくら新戸愛好会のうちの決まった13名が行っているため、安定的な活動ができています。

芝ざくらについては、隣接する下磯部地域でも相模川芝ざくら下磯部愛好会により植え付けが行われており、総延長は両地域で約1.4kmにも及んでいます。芝ざくらの開花中、新戸と下磯部地域の相模川河川敷は市内でも有数の観光名所となっています。また、毎年4月には芝ざくら祭りが行われ、多く

の観光客で賑わっています。この祭りの運営にも両地域の芝ざくら愛好会が尽力しています。

芝ざくらの植え付けを行ったことで、雑草が育ちにくくなり、鬱蒼とした状態がなくなりました。河川敷沿いにある遊歩道も人通りが増え、現在では不法投棄もほとんど見られなくなりました。

課題・展望

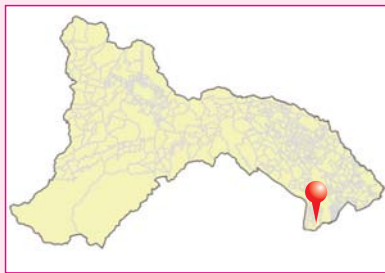
愛好会では、会員全員で活動する日もありますが、定期的に活動をしている人達がいるからということ、参加する会員が少なくなっています。また、地域の高齢化も進んでいるため、そのことも課題になっています。

これまで植え付けを行った河川敷の斜面に加えて、一段下の斜面についても植え付けが可能であることから、その準備を進めており、平成21年以降には二段に植えつけられた芝ざくらが見られる予定となっています。



みんなで汗をかいています

団体の基礎DATA



団体名◇相模川芝ざくら新戸愛好会
創立年◇平成14年
会員数◇124名
代表者名◇長谷川 孝さん



問い合わせ▶長谷川 孝さんまで

体験・取材した職員から一言！



納税課
平井 友行

除草作業に参加して、少し腰が痛くなりました。毎週除草しているとはいえ、13人では1回の作業はなかなか大変な仕事量になると思いました。会長もおっしゃっていたように、活動に占める“苦しい”部分が大きいので、活動が“楽しい”と感じられる工夫を増やしてみてもいいのではないかと思います。



都市交通計画課
齋藤 竜太

除草作業といってもかなりの重労働であって、体に対する負担も大きく継続することは大変だと思います。しかし、芝ざくらを、地域を愛する気持ちを今後も持ち続けていっていただければと思います。



職員課
木林 寿康

取材当日に除草作業に参加しましたが、芝ざくらが植えてある部分は、斜面のため通常の作業より腰に負担が掛かり、毎週作業されている方々は大変だと思いました。こうした苦労があっても、芝ざくらを維持できるのは、地域をより良くして行こうという精神と地域への愛着があるからだと思いました。



芝ざくらのアップ

○環境美化・保全活動事例

芝ざくらで不法投棄よ、さようなら

事例の概要

下磯部地域の相模川河川敷は、雑草が放置された場所に不法投棄が多く悩んでいました。丈の長いカヤ、ブタクサといった雑草が生い茂り、空き缶等のゴミだけでなく、ひどいところでは自動車も捨てられていました。この現状を打開するために、地域内で回覧をして除草作業を始めました。しかし、ただ除草をするだけではまた雑草は伸びてきてしまうため、多年草の芝ざくらを植えました。雑草が減り環境が整備されたと不法投棄は減り、今では芝ざくら祭を行えるほど、立派な環境を作り上げることに成功しました。現在も定期的な除草作業を行うことにより、きれいになった河川敷を維持し守っています。

特徴・ポイント

月に1度の定例的な活動である除草作業は出来るだけ大人数で行うた

めに、相模川芝ざくら下磯部愛好会の会員に回覧を回し、大勢の力で活動しています。1回あたりの参加人数は40〜50名で愛好会の役員は毎回参加しています。

同じように芝ざくら愛好会がある新戸地域との連携もあり、今では両地域で全長1.4kmにまで芝ざくらが植えられています。

また、愛好会は作業の場に加えて、活動を通じて地域内のコミュニケーションが深められるなど、交流の場としての役割も持っています。地域を愛し多くの人に来てもらいたいとの思いから始まった活動は、着実な成果をあげています。

課題・展望

芝ざくら愛好会は、老人会、自治会、大風保存会が母体となっており、それぞれの組織が協力することによって、現在の活動が行われています。現在の会員だけでは年齢層が高くなってしまっており、若い年代の

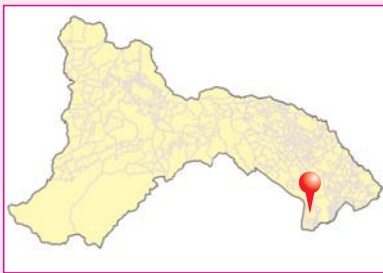
人たちが活動に参加・協力してくれるように対策を講じる必要があります。このため、自治会や大風保存会からの参加者を増やせるように各会の中で協議をしたり、回覧のほかに活動に関する啓発活動の検討が重要となってきています。

また、芝ざくらを継続的にきれいに咲かせるためには約5年周期で土の入替えを行う必要がありますが、この土壌整備費用も課題となっています。



芝ざくらまつりの風景

団体の基礎DATA



団体名◇相模川芝ざくら下磯部愛好会
創立年◇平成16年
代表者名◇齋藤 則康さん



問い合わせ ▶ 齋藤 則康さんまで
電話 046-253-1670



草取りもひと仕事



みんなで作業しています

体験・取材した職員から一言！



納税課
平井 友行

地域政策を考える上ではその地域に住む人、実際に活動する人、地元組織が上手くバランスを取りながら発展していくこと、そして行政がそれらの関わりを適切にサポートできることが大事だと思います。



都市交通計画課
齋藤 竜太

不法投棄が絶えず大きな問題となっていたこの地区で、芝ざくらを植え環境の美化に努めている本愛好会はとても前向きで会員同士の交流の場になっていると感じました。温かい雰囲気を感じながら活動が出来てとても充実した時間を過ごしました。芝ざくらに対する愛情と地域への愛着を今後も持ち続けていただきたいです。



職員課
木林 寿康

活動自体が地域のコミュニケーションの場でもあることが、自主的に参加される動機だと思います。除草作業に参加した当日は真夏日にもかかわらず、20名以上の方が参加され、休憩時には、あちこちで楽しそうな笑い声が聞こえました。



アジサイの保全とコミュニティ活動を兼ねた穴川沿いの剪定作業

○環境美化・保全活動事例

里山を後世に残していくために

事例の概要

城北自治会における里山の保全活動としては、この地区を流れる穴川のホタルの再生を目的に、平成3年に「ホタルを守る会」が発足し、平成6年には自然保護を目的に「花と緑を守る会」が発足しました。その後、平成9年に両会を統合し「プチエコじょうほく」が誕生しました。現在では自治会加入世帯の約70%が加入し活動を行っています。この活動で水路や農道の整備を行い、ホタルの再生に成功し、現在では250匹以上が生息するまでになりました。また穴川沿いに1200株ほど植樹した紫陽花が毎年きれいな花を咲かせています。活動開始からのPR効果もあり、毎年6月に開催される城北里山祭りに、ホタルや紫陽花の観賞に、地元住民だけ



里山入り口の看板

でなく市内や市外からも多くの人が訪れる場所となっています。

特徴・ポイント

活動への参加者は、里山に対する愛着が強く、生まれ育った里山を守りたいという気持ちで活動を続けています。その中でもホタルの保護と紫陽花の育成には特に力を入れており、他市町村へ視察見学に行ったり、有識者を呼んで講習会を開催したりと、積極的



里山まつり風景

に知識・技能の向上に努めています。また、活動に対して住民の熱意が持続している理由は、活動自体が本来の目的以外に、住民相互のコミュニケーションの場として活用されているところにもあります。活動を通じて住民が直接顔を合わせることで、深められる交流や、集団で目的を達成することと共有できる満足感や充実感が、結果としてこの活動を継続させていく原動力になっています。

課題・展望

この保全活動は里山で育った世代が主体的に行っていますが、活動参加者の高齢化が進んでおり、担い手となる子や孫の世代へ活動に対する理解と協力を求めていくことが今後の課題となっています。また、広大な山や水路、ホタルや紫陽花等を保全するためには多くの予算が必要であり、会費や自治会からの助成金だけでは運営が厳しい状況にあります。このため、行政に対しても補助金の交付等、施策に基づく

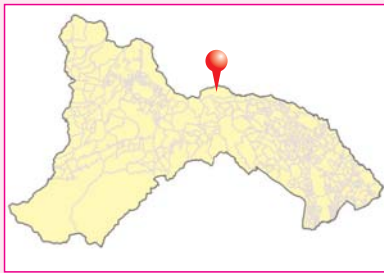
財政的な支援を求めていると考えています。

このような課題があるなかでも、会員は水路機能の改善や、ホタルの繁殖を目的とした穴川の整備など今後の展望を持ち、少しずつ状況を改善していこうと毎年努力しながら、人手の確保と里山の整備を行ってま



綺麗に咲いているアジサイ

団体の基礎DATA



団体名◇プチエコじょうほく（城北自治会）
世帯数◇140世帯
代表者名◇八木 祥次さん



問い合わせ▶八木 祥次さんまで
電話 042-782-4451

体験・取材した職員から一言！



下水道整備課
田中 篤史

地域が里山を保全していくためには、「人」、「お金」、「里山への愛着」のバランスがとても重要であると感じました。このバランスが維持できるよう、行政も施策との整合性を確認し、バックアップできる手法を地域と共に考える必要があると感じました。



市民協働推進課
諸角 英彦

今回の体験取材を通じて感じたことは、地域でがんばっている人はとにかく「元気」ということだ。「地域のためにがんばろう」という鋭気が伝わってきます。今回紫陽花の剪定をお手伝いさせていただいたが、地元の方の元気につられて、楽しく作業をすることができました。



お釜で炊き出し訓練中



みんなで一斉に草刈り&清掃中

○環境美化・保全活動事例

美味しく組んで参加者増加！ 炊き出しと清掃

事例の概要

東原自治会では、階段土手の草刈り（年4回程度）・湖上祭前の清掃などの奉仕活動、防災訓練などを実施しています。湖上祭前の清掃は、自治会ができる前は観光協会が主体となっており行っていました。その頃は相模湖駅前に集まり、ホウキなどの清掃用具が支給されました。イベント感覚で一斉に行われていました。現在は自治会ごとで実施日もバラバラですが、概ねどの地区も湖上祭の前に清掃を行っています。

また防災訓練は9月に行い、炊き出しのおにぎりを配っていましたが、こうした活動が別々の日に行われると、参加する人が分散してしまいます。そこで、防災訓練の中の炊き出し訓練だけ分離させて奉仕活動と併せ、その後懇親会を行ったところ、例年よりも参加者が増加しました。そのため、今年度も炊き出し訓練



大きなおにぎりがズラリ

と奉仕活動及び親睦会を同日に行い、地域の交流をはかっています。

特徴・ポイント

9月に行っていた防災訓練の中から、炊き出し訓練を分離させて奉仕活動と同日に行うところが最大のポイントです。おにぎりを受け取るために来る子どもや若い人の参加も増えました。

当日は朝早くから三個の釜で炊き出しを行います。1人2個ずつのおにぎりが行きわたるよう、1000個程度はおにぎりを作ります。このおにぎりを作っている間に、30〜40人で一斉に草刈りと清掃を行います。用具はそれぞれ持ち寄り、ゴミ袋は支給します。7月下旬という暑い時期に行うため、体の変調を感じたらすぐに休むように徹底しています。また、北相中学校の敷地内に防災



労働の後は、子どもも一緒に懇親会

用貯水タンクがありますが、これにも年に何度か栓を開けて水を替えないと水が澱み、いざというときに使い物にならないため、こういった機会に水栓を開けています。労働後の懇親会には子どもが練習してきたお囃子を披露する場面もあります。炊き出しのおにぎりとおにぎり用おにぎり、和やかなひとときが過ごされました。

課題・展望

東原自治会の自治会加入率は100パーセントであり、世帯構成も把握されています。しかし、徐々に高齢化地区になりつつあり、自治会の役員も固定化しつつあります。自治会としてある程度の規模を保つためには、本来は100世帯程度の単位で構成することが望ましく、他の自治会との合併を持ちかけたこともあり、難しい部分があります。今後も東原自治会が発展していくためには、近隣地区の自治会と手を

取り合っていく必要があります。手を取り合うといっても、頭で考えるだけではなく、行動を起こすことが大事だと考えています。

与瀬地区は子どもが少ないため、3〜4の自治会地区にまたがって子ども会が構成され、毎年夏季レクリエーションが行われています。前年は、これに自治会も参加し、親睦をはかろうという意味合いでパン作りを行いました。こうした繋がりや、他地区との連携を大切に、近隣地区が同じ方向を向いて協力しあうことが、今後の発展の鍵だと思われれます。

団体の基礎DATA



団体名◇東原自治会
 創立年◇平成2年
 世帯数◇55世帯
 代表者名◇澤塚 正史さん



問い合わせ▶自治会長 澤塚さんまで
 電話 042-684-2344

体験・取材した職員から一言！



市民協働推進課
鈴木亜由美

草刈りや清掃といった労働も、こうして皆さんで力を合わせ、おいしいご飯が待っていることによって楽しいイベントに変わりますね！皆さんがそれぞれの得意分野を活かして活動されているのに感心いたしました。



市民協働推進課
北村 工匠

炊き出し訓練を活用して、地域イベントの参加者増加につなげている工夫がすばらしいと思いました。暑い中の清掃もいい運動になりましたが、おいしいおにぎりと子どもたちのお囃子も聴けて、楽しかったです。



堆肥



動物の糞



みちの花壇

○環境美化・保全活動事例

地域の大学等との連携の下での町内美化活動の推進

事例の概要

自治会内の美化活動の一環として「みちの花壇」づくりを積極的に行っています。苗は年2回「みちの協会」から提供されていますが、花壇に用いる堆肥は、麻布大学の動物管理センターより無償提供を受けています。

これは、平成10年の大学の施設落成式に自治会が出席した際に、堆肥利用の提案があったことを契機としたもので、以来、大学との連携の下で各花壇をまわり、堆肥を散布して花壇づくりを行っています。

また、平成18年より地域住民の環境に対する意識を高めようと、大学から講師を招いての講演会も実施しています。一方で、工場敷地内における企業イベントへの参加を通じて交流を深めた、近隣の企業（富士工業）も毎月1回の頻度で敷地周辺の清掃活動を行っており、清掃活動は地域ぐるみの取り組みとなっています。

特徴・ポイント

活動の契機は、街中で見られるゴミのポイ捨てや粗大ゴミ等の放置を無くすことでしたが、ゴミの放置行為そのものを禁止するのではなく、花壇整備等を通じて街中を汚しにくい雰囲気醸成する、という心理的な動機付けを



近隣企業敷地内での祭の様子

課題・展望

自治会区域内の職員住宅に住む防衛省職員世帯が会員の大半を占めていますが、転勤や交代制勤務等で自治会の活動に継続的に参加してもらいにくい状況です。それにより、働き盛りの世代よりも退職した世代が活動の中心的な担い手となっており、今後、高齢化が進む中では、後継者を育てる策が必要とされています。また、相模総合補

促していることが特徴です。「美化活動」という性質上、強制ではなく、あくまで自主的に参加してもらうことで、地域住民の自発的な美化意識を誘発することを目的としています。

この結果、当該美化活動は開始以来10年間途絶えることなく、地域へ定着したものとなっています。

一方、この活動は地域内の麻布大学付属高校の生徒の意識にも影響を与え、在校生の手により通学路の清掃活動が自主的に行われるようになるなど、相乗的な効果が発生しています。

給廠や大学等の大規模施設が自治会区域内に位置していることにより、地域が分断されているため、住民間の一体化を図る方法を見出すことも重要な課題となっています。

団体の基礎DATA



団体名◇淵野辺1丁目自治会
 創立年◇昭和30年
 世帯数◇540世帯
 代表者名◇岡本 正久さん



問い合わせ▶岡本 正久さんまで
 電話 042-755-2577

体験・取材した職員から一言！



生涯学習課
加藤 敬

大学や協力的な企業等、地域にある資源を有効活用することで、それぞれの住民が無理をせず、気持ちよく活動をしていくことができるのだと感じました。



納税課
折笠 真代

清掃活動だけではなく、街を汚しにくい環境をつくるという部分、そして強制でなくあくまでも自主的な活動に委ねる方針だからこそ生きてくる要素が非常に強いと感じました。



都市計画課
梶野 喜一

街を汚しにくい雰囲気づくりなど、住民の自発的な美化意識に訴えかける取組は、実情に即した対策であると感じました。実際に活動に携わる方はよく工夫されていると感じました。